第１号

○令和８年度
　第１回理事研修会

道小情報

発　　行
北 海 道 小 学 校 長 会
札幌市中央区北５条西６丁目
第二北海道通信ビル３０６号室
TEL０１１－２１８－９８５０
FAX０１１－２１８－９８５１
e-mail:h.s.k-32@dousho.jp
https://www.dousho.jp/

令和８年度　第１回理事研修会

☆令和８年５月 12 日(火) ９時 30 分より
☆会場：ホテルライフォート札幌

【報告事項】
○教育情報について
○会務報告
○第 78 回全連小研究協議会北海道大会・第 69 回道小教育研究札幌大会について
○その他

【協議事項】
○令和８年度の活動推進について
○副会長、理事の専門部所属について
○専門部会の開催について
○各部年間活動計画について
○道教委への要望活動について
○第 78 回全連小研究協議会北海道大会・第 69 回道小教育研究札幌大会の分科会運営者の委嘱について
○その他

【道教委講話】
●義務教育課より
（幼児期及び架け橋期の教育の充実に向けた取組の推進について）
（教育課程の適切な編成・実施について）
●特別支援教育課より
（特別支援教育について）
●教職員育成課より
（令和８年度「北海道教職員研修計画」について）
●健康・体育課より
（熱中症対策について）
●ＩＣＴ教育推進課より
（情報セキュリティ対策の徹底について）
●生徒指導・学校安全課より
（いじめ問題への対応について）
（「HOKKAIDO 不登校対策プラン」について）
●教職員課より
（教員の欠員状況と今後の対応について）
●道立教育研究所より
（道立教育研究所における取組について）

【連　絡】
○地区研修補助金等について
○第 78 回全連小研究協議会北海道大会・第 69 回道小教育研究札幌大会及び分科会運営者研修会について
○全道会長研修会に関わる事前調査について
○各部からの依頼事項について
○各種送付数、弔意、全連小バッジ等について
○次回 第２回理事研修会について
○その他

１　開会の言葉　‥‥‥‥‥‥‥國行　宏昭　副会長

今年の春は例年になく早い歩みで季節が巡り、学校も活気に満ちたスタートを切った。一方で、不登校児童への支援や教職員の確保、更には校務ＤＸの推進等、私たち校長が立ち向かうべき課題はより複雑で困難なものとなっている。こうした変革の時だからこそ、全道の校長が強固なネットワークで結ばれ、支え合う本会の役割はかつてないほど重要になっている。

今年度、稲上会長は「『チーム北海道』で未来への挑戦」というスローガンを掲げられた。私はこの「挑戦」において何より大切なのは、私たち校長自身が変化を恐れず、誰よりも「挑戦を楽しむ姿」を見せることだと考えている。校長が困難な課題を未来を創るための「面白い仕事」として前向きにとらえ、挑戦を楽しむ姿こそが教職員に勇気を与え、子どもたちの心に「自分もやってみよう」という火を灯す、最高のアプローチになるはずである。この理事研修会は、北海道の教育をよりよくするための挑戦の場」でもある。各地区の声を大切にしながら、北海道全体の教育をどう守り、創るかという広い視野をもち、ぜひ前向きで活発な議論をお願い申し上げる。特に今年 10 月に開催される「第 78 回全連小研究協議会北海道大会」は、私たちの「挑戦」を形にする最大の舞台である。全道が一丸となって突き進むための道筋を、皆様と共に描くことを願っている。この理事研修会が、全道の子どもたちと先生方の笑顔につながる、実り多き時間となることをご期待申し上げ、開会の言葉とする。

２　会長挨拶　‥‥‥‥‥‥稲上　敏男　会長

昨日は、皆様のご協力のおかげで総会が滞りなく進み、令和８年度の道小の活動計画、予算等の議案が承認されるとともに、総会宣言文が採択されたことに厚くお礼申し上げる。

本日の理事研修会では、各専門部の組織づくりと

年間活動計画、道教委への要望活動、全連小研究協議会北海道大会の運営体制等について協議をお願いする。理事研修会は年間５回予定している。この理事研修会が「チーム北海道」のつながりを深め、子どもたちの未来のため、北海道教育の未来のために、充実した研修と情報交流の場となるよう努めてまいりたい。

それでは、会長資料に記載している５点について説明する。

１点目は、令和８年度道小スローガン「『チーム北海道』で未来への挑戦！～つながり、学び、声を届ける～」に込めた思いについてである。項目２「未来への挑戦！」に記載している「未来の北海道の教育、未来の子どもたちのために挑戦し続ける道小でありたい」というのが一番伝えたい思いである。私たち校長自身が研鑽に励み、失敗をおそれず挑戦し続けることが、未来の北海道の教育につながり、子どもたちの未来にもつながる。特に今年度は全連小研究協議会北海道大会が開催されるので、全国の校長とともに学びを深めていくためにも、「チーム北海道」の力が必要である。具体的には、13 の分科会全てのグループ協議の司会を北海道の校長に担当していただき、協議の柱に沿ったグループ協議とすることで分科会が充実すると考えているのでご協力をお願いする。

２点目は、事務局構成についてである。事務局幹事及び役員は、昨日の総会・研修会で承認いただいたことにより、札幌から 14 人、地区から６人、計 20 人で構成している。地区の割当てについては、事務局研修会等の出席にあたり、距離又は交通機関の利便性を踏まえ、石狩、空知、後志、胆振、旭川から１人ずつ、上川と小樽は２年交代を基本に１人の幹事を選出していただいている。また、地区選出の事務局次長は、道教委との意見交換会・各課懇談会及び要望書作成の業務を担当することとなっている。今年度は、後志地区から選出されている丸岡校長がこの任に当たる。事務局員の総数については、組織の見直しにより、平成 27 年度までは 21 人体制であったが、平成 29 年度からは 19 人としている。しかし、今年度実施される全連小研究協議会北海道大会の準備のため、昨年度と今年度の２年間は、全国大会専任の事務局次長を１人増やし 20 人となっている。したがって、次年度からは 19 人体制に戻ることになる。また、地区幹事については、「チーム北海道」を一層推進していくため、平成 27 年度までの２人から少しずつ増やしており、令和４年度からは６人となっている。

３点目は、道小の他団体への協力派遣についてである。20 人の事務局員で、記載している団体の会議に道小の代表として出席している。北海道教育の課題について、小学校の現状や改善するための意見をそれぞれの会議で述べている。このような活動にも道小事務局員が参加していることをご承知おきいただきたい。

４点目は、４月 17 日に行われた、令和８年度第１回全連小常任理事会での松原会長の資料である。新年度のスタートにあたり、教育活動において挑戦と変革を積極的に進めていくという方針が語られた。教育現場では失敗を恐れず挑戦する姿勢が重要であり、管理職はその支援に努める必要がある。また、教育観のアップデートや学習指導要領の改訂に伴い、教員や校長の意識改革が求められるとも語られていた。

５点目は、全連小研究協議会北海道大会講演企画書についてである。全連小常任理事会で北海道から提案し承認された。株式会社ファイターズスポーツ＆エンターテイメント代表取締役社長　前沢　賢様に、「ふるさとの誇りから未来社会づくりへの挑戦～Ｆビレッジ構想から学ぶ学校経営～」という演題での講演をお願いしている。前沢様は「校長がどのようなことを聞きたいのか分からないから、当日、質問を受けて答えていきたい」と話されていた。皆様からたくさん質問をしていただき、副主題に迫る講演を創り上げていきたいと思うのでご協力をお願いする。資料については以上である。

今後の予定としては、全連小の理事会が５月 21 日に東京で行われる。理事会には、前会長の田邊校長と私が常任理事として、事務局長の山田校長と６人の副会長が理事として参加する。その理事会では、私から全連小研究協議会北海道大会について説明することになっている。「分科会の充実こそが最大のおもてなし」という道小教育研究大会の精神や、分科会の充実のためには、大会に参加する一人一人の熱い思いが大切だということを伝えていく。

また、５月 22 日には全連小総会・研修会があり、先ほどの理事、常任理事に加え、地区から選出された代議員の方々９人も北海道を代表して参加される。

今後、私は北海道を代表して全連小の常任理事会や理事会に参加するので、各地区の課題や悩み、効果的な取組等について、全連小を通して国に声を届けてまいる。

本日の第１回理事研修会、どうぞよろしくお願い申し上げる。

３　自己紹介

４　議長選出

会則により副会長の輪番から第５ブロック　神谷　博之　副会長を議長に選出。

５　報　　告

(1)教育情報について　・・・山田　健一　事務局長

資料の中から三つの記事を紹介する。

初めは、「デジタルに適した学年・教科の議論開始、有識者ら 10 項目の論点提示『小学校では紙が優位』意見も」の読売新聞の記事である。文部科学省では、デジタル教科書が正式な教科書となった場合、導入に適した学年・教科等を定める指針策定に向けた議論を始めた。有識者らによる検討会議の初会合が開かれ、認知科学等の知見を踏まえた検討を含む 10 項目の論点を示し、今週にも指針を策定する。デジタル教科書をめぐっては、年齢が下がるほどデジタルの影響を受けやすくなるとの指摘もあり、委員の中からは、デジタル機能に子どもの注意が向きやすく、集中の妨げになることがあるなど、学習で活用する上での留意点を挙げた。小学校の学びでは紙が優位とする意見もあった。東京都福生市立福生第一小学校の高瀬智子校長は、小学校低学年では学習内容を容易に見られることが重要。必要なことをすぐに見るには、デジタルより紙の教科書の方が効果的だとした記事が載っている。高瀬智子校長は、全連小の調査研究部長を務められており、全連小の役員の立場として国へ声を届けている。事前にデジタル教科書に関わって、全国の常任理事に意見聴取があった。その際には、デジタル教科書への期待と課題という内容であった。残念ながら、紙面では課題的な部分だけが報道されていた。今後は、文部科学大臣が述べたデジタル教科書についての意見を基にして進んでいくと思われる。2030 年の小学校の教科書採択においては、紙とデジタルについて少し幅が広がっていきそうである。

次は「次期学習指導要領の総合探究『テーマ』『個人』２形態　最終学年で『節目の探究』」の道通の記事である。中教審のワーキンググループは、総合的な学習の時間を「テーマ探究」と「マイ探究（個人探究）」の二つに分ける案を示した。これまでは、学校が設定してきた総括的なテーマが中心だったが、今後は学習者が個々の興味・関心や得意分野に基づいて課題を設定する授業デザインの手掛かりにすることがねらいとなっている。この他、探究の質を高める「考えるための技法」の再整理や小中高の最終学年に成果をまとめる「節目としての探究」を位置付けるなど、今後は授業カリキュラムの工夫・改善を精力的に進めて行くことになる。

最後に「特異な才能の教育課程へ」の道通の記事である。次期学習指導要領では全ての児童生徒が学ぶ通常の教育課程（１階部分）と個別の教育課程（２階部分）を組み合わせる仕組みを検討している。２階部分については、日本語指導や不登校に加え、「特異な才能」に関する特例を設置し、多様な子どもたちを包摂する制度へと改善を図るとされている。

特異な才能については、言語、数理、科学、芸術音楽、運動、プログラミングなど様々な領域を想定している。例えば、中学生が数学の授業時間に高校、大学の講義をオンラインで受けるなど、これまでになかったことも考えられており、かなり日本独自の制度になる。多様性の包摂に対する教育環境や人的配置をどのように進めて行くかなど、私たちの手腕が試されることになる。

この他にも、４月には道内各地で義務教育学校が相次いで開校した記事、2027 年から教員採用試験の一次試験が全国共通の問題となる記事、北海道内の若手教員の離職率が増加した記事も掲載しているので、時間がある時にお読みいただきたい。

(2)会務報告　・・・・・・・丸岡　哲也　事務局次長

４月２日の事務局研修会を皮切りに、事務局役員研修会、道中との小中合同研修会等の諸会議、そして、昨日の第 69 回総会･研修会、本日の理事研修会及び各業務を、記載にあるように計画どおりに行うことができた。本日以降の５月の予定も掲載しているのでご覧いただきたい。

(3) 第 78 回全連小研究協議会北海道大会・第 69 回道小教育研究札幌大会について

・・・・・松本　昌也　事務局次長
・・・・・石川　篤司　研究指名理事

これまでの道小教育研究大会では道小事務局の立場から主管地区の皆様と関わらせていただいてきた。今年度は、主管地区の一員として、内側から大会運営に携わることとなった。実際に準備の最前線に身を置いて痛感していることは、これまでに主管地区の皆様に担っていただいた業務が、いかに大きな熱量と細かなご配慮によって整えられてきたことである。これまでの道小教育研究大会において、大会を成功に導いてくださった各地区の皆様のご努力に改めて感謝と敬意の気持ちをもちながら、今年度の大会においても、主管地区として総力を挙げて準備を進めていきたい。本日お集まりの理事の皆様をはじめ、各地区の皆様におかれましては、全連小研究協議会北海道大会の成功に向け、改めてお力添えを賜りますようお願い申し上げる。

２点について連絡させていただく。１点目は大会の申込みについてである。５月１日から申込みが始まっている。既に申込みを済ませた方も多いと思うが、締切りが５月 29 日となっているので、まだ申込みを済ませていない方がいた

ら、道小ホームページの専用フォームから申込みができることについて、改めて地区の会員へのお声掛けをお願いする。

２点目は、大会要録についてである。現在、全連小研究協議会北海道大会の研究提言等を収めた大会要録を編集しているところである。ＪＴＢから発送され、９月上旬を目途に参加者のお手元に届く予定である。

第78回全連小研究協議会北海道大会に向けた、実行事務局研修会の内容及び準備状況の概略についてご報告する。

現在、道小役員・事務局の皆様、全道各地区の校長会の皆様の協力の下、10月１日、２日開催の全連小研究協議会北海道大会に向けて準備を進めている。主会場は札幌コンベンションセンター、そして、分科会場としてホテルエミシア札幌、札幌プリンスホテルパミール館を加えた３会場で、全国から2,300人の参加者をお迎えする準備を進めている。昨年度の準備事務局から今年度は実行事務局に移行し、多岐にわたる業務を推進してきた。これまで２回の実行事務局研修会を経て、去る４月20日に自治労会館において「第１回実行委員全体研修会・実行委員各部門研修会」を開催した。当日は、札幌市小学校長会会員197人が参加し、大会本番に向けた実行委員会組織が発足し大きく動き出した。

会の冒頭、実行副委員長である札幌市小学校長会の関根会長より、大会成功に向けた力強い方針が示された。その要旨は以下の３点である。１点目は、大会の意義として、全国から2,300人の校長が集う本大会を単なる情報交換にとどめず、各校の学校運営における問題解決に資するものとすること。２点目は、主体的な姿勢として、私たち自身が学び、楽しみ、参会者がわくわくするような大会を目指すこと。３点目は、本大会を「チーム北海道」としての出発点とし、全国へ発信していくことである。

続いて、大会実行委員会の結成・発足について説明が行われた。具体的には、実行委員会大綱に基づき、組織体制の理解と確認、今後の会議日程等のスケジュール並びに大会前日・当日の詳細な実行委員の動向について全体で共通理解を図った。その後、道小の山田事務局長より大会大綱の補足説明及び実行委員各部長・委員長より、現時点までの進捗状況について報告がなされた。全体研修会の最後には、道小の稲上会長より「本日の全体研修会を通じ、札幌市の各校長の担当業務が明確になり、大会への思いを共有することができた。道小と札幌市小学校長会が強固な連携を図り、全員の力で大会を成功に導いてほしい」と激励をいただいた。全体研修会終了後は、総務部門、運営部門、研究部門に分かれ、部門ごとにそれぞれの役割分担に基づき、より具体的な事務レベルでの詳細な検討・協議を進めたところである。

参加申込みについて、全国各地区に、「北海道大会のご案内」及び「大会参加申込みに関する留意事項」を発送した。大会参加申込みは、参加者個人でフォームから申し込んでいただきたい。併せて、開閉会式終了後のシャトルバス、宿泊、教育視察研修も個人でフォームから申し込んでいただく予定である。

大会本番に向け、チーム札幌、チーム北海道で一体となり、準備は着実に加速している。今後とも、皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げる。

６　協　議

(1) 令和８年度の活動推進について

‥‥山田　健一　事務局長

令和８年度の「活動計画」については、昨日の総会・研修会において、活動方針のみ全文を読み上げ、提案させていただいた。具体的な活動内容については、総会・研修会開催要項に掲載しているので、ここでは活動内容として掲げている10項目のうち、重点をおいて進めていく必要がある２点について説明する。

１点目は、活動内容５に掲げた「『ふるさとに誇りと愛着をもち ともに未来社会の創造に挑戦する子ども』を育てる研究活動を推進し、研究成果の交流を図るとともに、校長自ら研鑽に努める」に関わる項目である。いよいよ、今年度、第78回全連小研究協議会北海道大会並びに第69回北海道小学校長会教育研究札幌大会が開催される。2,300人という方々を見たことや、同規模の大会を運営した経験は少ないが、４月から札幌市小学校長会と道小事務局が共に精一杯の準備を進めているところである。しかし、それだけでは賄えないことも事実であるため、各地区の校長会からご参加いただく皆様にも役割を担っていただきたい。詳細については、別の担当が説明することになるが、主体的に当事者意識をもって参加をお願いする。なお、昨年度の道小教育研究根室大会の成果を十分に継承し、各分科会の趣旨に基づく協議はもちろん、適切なＩＣＴの活用も含めて行っていきたい。なにより、参加者が校長の役割と指導性を学び得ることができる分科会に向けて準備を進めている。明日からの分科会ごとの運営者研修会もその一つである。令和10年度から全連小の研究主題が新しくなる予定であり、研究大会開催方法変更の方向性が出てきた。今年度より道小としても、新しい副主題の検討に動き始める予定である。その進捗状況については、都度、報告させていただく。

２点目は、活動内容７に掲げた「本道教育をめぐる教育諸条件を把握し、その改善と整備・充実、要望活動に努める」に関わる項目である。特に①として掲げている「質の高い安定的な教育活動の実現に向けた学校組織体制の充実」や、⑦の「子どもと向き合う時間を確保し、より効果的な教育活動を行うための学校における働き方改革の一層の推進」についてである。本来、教師が仕事に専念できる環境づくりなど、学校の組織力が一層高まるよう、人員の確保を含めて積極的に取り組んでいく。また、６月に行われる全道会長研修会、８月５日に予定してい

る道教委との意見交換会・各課懇談会等でも、全道各地の情報交流や意見交換等を通し、本道教育の現状を十分に把握・共有し、その解決に向けて道教委とも連携しながら取組を進めていく。
以上の点を活動推進の重点とする。

(2) 副会長、理事の専門部所属について
・・・稲上　敏男　会長

所属一覧を配付後、理事の所属を提案。

(3) 専門部の開催について
・・・丸岡　哲也　事務局次長

専門部の開催について提案させていただく。各部で活動計画について協議いただく会場は、経営部と研修部が「グラーベ」、対策部と情報部が「レガート」である。専門部会終了後、道教委の行政説明が始まるまで休憩時間とする。

(4) 各部年間活動計画について

【経営部】　・・・・・・・・・・・・・・内海　洋　経営部長

経営部では経営部資料の年間活動計画にのっとり、各地区会員のご支援をいただきながら業務を推進する。
活動方針は４点である。１点目は、教育制度、教育改革及び諸法規等の情報収集と情報の提供・資料化である。２点目は、学校運営上の諸問題に関わる法制研究である。３点目は、学校経営の管理運営に関する調査及び研究である。４点目は、教育改革や学校課題に即応した法令・法規の情報提供である。
業務内容は３点である。１点目は「地区別教育経営研究会」通称「地教研」の開催協力についてである。この研究会は、道中の経営部と道小の経営部が隔年で企画と運営を担当し実施しており、本年度は道小が担当する。開催にあたっては、各地区から「質問事項」をいただき、その回答などについて事務局幹事で調査・学習会を実施し、各地区の研究会に情報提供をしていく。また、「地教研のまとめ」については、道小ホームページに掲載していく。２点目は「学校経営の資料」についてである。本年度は、道小が中心となって作成し、道中経営部と連携協力しながら７月に発行する予定となっている。地教研はもちろんのこと、校長が学校経営を進める際の参考資料となるよう、多くの会員にご活用いただきたい。３点目は「法制研究集録第 57 集」の作成である。本年度は道中の担当で、道小と連携を図りながら作成し、来年の２月にはホームページに掲載できるように進めていく。
最後に、この会の連絡で経営部副部長より、各地区への提出物等のお願いを理事や各地区の経営部長にお伝えするので、ご協力をよろしくお願いしたい。

【研修部】　・・・・・・・・・・・・・・植島　博幸　研修部長

研修部の活動の中核となるのは研究大会である。先ほど、石川研究指名理事が説明したように、全連小研究協議会北海道大会・道小教育研究札幌大会に向け、札幌市の大会実行委員会と連携を図りながら大会の諸業務を進めている。
本大会は二日間日程での開催となる。これまでの全連小研究協議会や道小教育研究大会との「学びのつながり」を大切にし、「ふるさとに誇りと愛着をもち ともに未来社会の創造に挑戦する子どもの育成」に果たす、校長の役割と指導性について研鑽を深めてまいりたい。
大会１日目の分科会運営は、道小教育研究大会の理念「分科会の充実こそが最大のおもてなし」の実現に向けて、本日午後の全体会を皮切りに４回の分科会運営者研修会をもち、研究内容の確認、研究成果の交流と各地区への還元等、大会を通して研究内容の充実・発展を目指し、当日の分科会の進め方について具体化していく。第１回分科会運営者研修会には理事の他、研究発表者、開催地司会者、そして、担当事務局幹事が参加し、運営面・内容面の深まりに向け連携を図っていく。理事には、各分科会の趣旨説明者あるいは運営責任者としてお力添えをいただくことになる。なお、研修部長、研究指名理事等を分科会運営者から除く都合、理事による運営責任者が空席となる分科会がある。それについては札幌市の大会実行委員会で対応いただき、運営責任者が全ての分科会に位置付くこととなっている。今年度も、13 の分科会を全て開催する関係で、そうした分科会が七つほどあるが、札幌市から７人の校長にお力添えをいただくことになっている。また、担当事務局幹事が分科会運営者と十分にやり取りし、円滑な運営となるよう進めていく。
大会終了後には大会実行委員会と連携を図り、全連小の研究集録及び道小の研究集録「小学校教育別冊 63 号」を編集する。これは令和９年１月発行の予定である。また、毎年行われる全連小の教育改革等に関わる各種委員会調査を、今年度も各地区にお願いする予定である。集計や分析結果については、全連小で３月上旬に発行される「研究紀要」に掲載される。
他にも、各地区の研究活動については、12 月中に道小ホームページに掲載し交流に努める。「研究集録」「全連小からの調査」「各地区の研究活動」等の依頼事項については、この後の連絡で研修部副部長から説明するのでご協力のほどよろしくお願い申し上げる。
最後に、本年度も皆様のご協力を得ながら、新しい時代に即応した、新たな学びへの進化を図る学校の創造に向け、継続性ある実践的な研究に邁進していきたい。

【対策部】　・・・・・・・・・・・・・・佐藤　正寿　対策部長

令和８年度の対策部の活動計画について、概要を説明する。

はじめに、活動方針である。１点目は、学校経営上の諸問題や教育条件についての要望活動のための調査、情報収集等を行うことである。２点目は、会員の身分確立や勤務条件等の充実、組織の強化に必要な状況把握等を行うことである。３点目は、他団体との連携強化、教職員の福利厚生の充実を目指し、その状況把握と条件整備を図ることである。

次に、主な業務内容である。１点目は、文教施策及び教育諸条件の充実に関することである。その内容としては、「学校経営上の問題点の把握及び対応等について」「身分の確立と待遇・勤務条件改善等について」「条件整備、教育予算の要望、教職員定数等の整備改善等について」である。２点目は、組織強化に関することである。その内容としては「組織状況の把握と関係機関や他団体との連携強化の推進」である。

今後、これらの活動方針、業務内容に沿って、次の４点の具体的な業務を行う。１点目は、会員必携の編集・発行である。組織の状況把握、関係機関との連携、必要な資料の提供等、道小組織の基本と考え発行の準備を進めていく。２点目は、全道会長研修会の計画・運営である。共通話題として、「人材の育成に関わること」「教育課程に関わること」「時代に即応する教育課題に関わること」の三つを設定して意見交流を行うことで、文教施策への要望や意見表明につながる充実した研修会にしていきたい。共通話題「時代に即応する教育課題に関わること」については、教職員の働き方改革と校務ＤＸの推進や包摂性の高い学校づくりなど、昨今の教育情勢に関わる各地区で課題と感じていることや、他地区の取組情報等を話し合う場としていきたい。３点目は、組織の実態調査である。全道調査として、期限付教員の配置状況、広域人事や役職定年校長の動向等、その他必要に応じた調査を行う。調査結果については、理事研修会で報告するとともに、道小情報特別号や道小ホームページへ掲載する。４点目は、他の部同様に道教委との意見交換会・各課懇談会に向けた取組である。関係者と連携の下、運営補助を行っていく。

最後になるが、対策部の業務は、各地区からの情報提供がなければ成り立たないものばかりである。必要な調査を実施する場合は、地区理事及び事務局長を通してお願いすることとなるため、今年度もご協力のほどお願い申し上げる。

【情報部】　・・・・・・・・・・・・・・石坂　　剛　情報部長

情報部の年間活動計画について説明する。

情報部では、総会で承認された道小の活動方針を踏まえ、各地区校長会や会員の連携と対外的な広報活動を推進し、会員の連帯意識の高揚と運営組織の強化及び活動の効率化に努める。そのため、教育情勢や道小の機関会議での審議内容や決定事項、活動状況についてできるだけ広く、かつ迅速にお知らせすること、各地区校長会や会員の活動、意見等についての情報交換のツールとしてその役割を果たすこと、道中や他の教育関係団体と連携・協力し、教育世論を喚起することなどを念頭に活動を推進していく。

具体的な業務内容として、５点説明する。１点目は、「教育北海道」の発行である。「教育北海道」は年２回、７月と３月に発行する。原稿執筆のローテーションにのっとりご依頼するので、執筆者決定の手配をお願いしたい。２点目は、「道小情報」についてである。理事研修会の協議内容については、道小ホームページに掲載し報告する。また「道小情報」ＰＤＦ版を各地区の広報・情報担当者に配信し、各担当者から地区の会員に届けていく。３点目は、「道小情報・道中だより号外」の発行である。道教委との意見交換会・各課懇談会の様子を掲載していく。道中との共同編集であるが、今年度は道中が制作する。４点目は、道小ホームページの充実である。道小教育研究に関する情報、総会・研修会や理事研修会の内容、各地区の校長会の様子等を掲載していくのでご覧いただきたい。５点目は、全連小の教育研究シリーズや小学校時報への原稿依頼についてである。各地区に原稿提供のご協力をお願い申し上げる。

(5) 道教委への要望活動について

・・・・丸岡　哲也　事務局次長

道教委への要望活動として２点挙げる。１点目は要望書についてである。昨年度より道小が担当し、道小・道中・道公教が協働して「要望書」を作成してきたところである。議案資料の要望内容を参照いただきたい。６月４日に道小・道中・道公教の会長の連名で道教委教育長に手交する予定である。

２点目は、道教委との意見交換会・各課懇談会についてである。今年度は道中が担当しており、８月５日に開催する運びとなっている。意見交換会を「ホテルポールスター札幌」で、各課懇談会を「かでる２・７」で行う。副会長の皆様には、地区・ブロックの状況等を踏まえた意見を述べていただきたい。各課懇談会については、三つの分科会において、各懇談テーマに沿って、各四つの提言をいただくことになる。部長となっている理事及びへき・複連と道特協の指名理事から五つの提言を予定している。今後は、副会長の皆様に意見交換会のテーマに沿った

意見、理事の皆様に各課懇談会の懇談テーマに沿った提言をご依頼申し上げる予定である。

(6) 第 78 回全連小研究協議会北海道大会・第 69 回道小教育研究札幌大会の分科会運営者の委嘱について

‥‥稲上　敏男　会長

所属一覧を確認後、分科会運営者を提案。

(7)その他

特になし

７　議長退任　‥‥‥‥‥‥‥‥神谷　博之　副会長

８　連　　絡

(1)地区研修補助金等について
(2)第 78 回全連小研究協議会北海道大会・
　第 69 回道小教育研究札幌大会及び
　　分科会運営者研修会について
(3)全道会長研修会に関わる事前調査について
(4)各部からの依頼事項について
(5)各種送付数、弔電、全連小バッジ等について
(6)次回 第２回理事研修会について
(7)その他

９　閉会の言葉　‥‥‥‥‥‥関根　治彦　副会長

本日の理事研修会では、長時間にわたってご協議いただいたことに感謝申し上げる。

さて、私は昨日の総会・研修会に出席するため、地下鉄を利用して会場まで歩いてきた。その道中、満開の八重桜が散り始めている中、折からの強風で桜吹雪となる美しい景色を見ることができた。私がその絶景を楽しみながら歩いていると、前方にいた高齢の外国人のご夫婦が歓喜の声を上げてスマートフォンで動画等を撮影していた。撮影の邪魔をしては申し訳ないと思い、その場で少し待っていると、ご婦人が流暢な日本語で「写真を撮ってもらえますか？」と聞かれたので、桜吹雪となるのを待ってご夫婦を撮影した。ご婦人は「満開の桜もいいけど、散っている桜もすばらしいですね。やはり本物を見ないと、そのすばらしさは分かりませんね。ありがとうございます」と言って歩いて行かれた。私が日本のわびさびを理解する外国の方だと感心していると、「Excuse me」と声を掛けられた。後ろを振り返ると、若い外国人の女性３人が立っていた。そしてスマートフォンを差し出して「Could you take a picture of us？」と話し掛けられた。「Sure!」と答え、写真を撮ってあげた後、スマートフォンの翻訳機能を介して会話をした。会話の中で、大通のホテルに滞在している彼女たちがどうして中島公園の桜を見に来ているのかと聞くと、彼女たちは、自分たちがフォローしているインフルエンサーのＳＮＳに「桜が舞って素晴らしい」という前日の投稿を見たから来たと教えてくれた。この２組の外国の方とのやりとりを通じて、やはり本物に触れることは大切であること、そして、その本物に触れるきっかけづくりが大切であることを実感した。

10 月１日～２日には、全連小研究協議会北海道大会が開催され、北海道の各ブロックの校長方には分科会でのグループの司会等のお手伝いをお願いすることになる。ただ、全国大会で全国の校長方と学ぶ機会は、前述の話に例えるなら「本物」である。理事の皆様には、各ブロックに戻られましたら、是非、インフルエンサーになっていただき、その機会を逃すことがないように発信していただければありがたい。併せて、道小での調査・研究・要望の活動が教育環境改善につながっていることについても発信していただくことをお願い申し上げる。

以上で、令和８年度第１回理事研修会を終了する。

令和８年度　道小役員名簿

役職名	地 区	氏　　名	市町村	学校名
会　　長	札幌	稲 上 敏 男	札幌市	美しが丘緑
副会長	小樽	及 川 年 彦	小樽市	稲穂
	旭川	佐 藤 忍	旭川市	大有
	檜山	吉 川 聖	厚沢部町	厚沢部
	空知	國 行 宏 昭	岩見沢市	幌向
	ｵﾎｰﾂｸ	神 谷 博 之	遠軽町	生田原
	札幌	関 根 治 彦	札幌市	南郷
監査委員	石狩	玉 腰 武	江別市	中央
	上川	豊 田 央	鷹栖町	鷹栖
	渡島	渋 谷 智 実	鹿部町	鹿部
	日高	小 嶋 範 彦	日高町	富川
	釧路市	隈 江 幸 男	釧路市	城山
事務局長	札幌	山 田 健 一	札幌市	伏見

理 事 名 簿

役職名	地 区	氏　　名	市町村	学校名
事務局次長	札幌	下 山 弘 美	札幌市	宮の森
	後志	丸 岡 哲 也	黒松内町	黒松内
	札幌	松 本 昌 也	札幌市	前田北
会計理事	札幌	里 館 大	札幌市	南月寒
理事	石狩	内 海 洋	北広島市	大曲
	札幌	加 瀬 富 久	札幌市	円山
	後志	西 岡 健 幸	赤井川村	赤井川
	小樽	草 島 拓 也	小樽市	山の手
	上川	石 坂 剛	比布町	比布中央学校
	旭川	加 藤 広 章	旭川市	東光
	留萌	西 條 直 志	羽幌町	羽幌
	宗谷	松 本 ちひろ	稚内市	稚内南
	渡島	五十嵐 義 幸	七飯町	七重
	函館	小 田 将 之	函館市	八幡
	檜山	小 山 彰	せたな町	北檜山
	空知	木 村 一 典	深川市	一已
	胆振	今 田 和 也	苫小牧市	拓進
	日高	佐 藤 正 寿	新ひだか町	高静
	十勝	髙 橋 教 之	大樹町	大樹
	帯広	小 澤 容 子	帯広市	柏
	釧路	斉 藤 直 彦	釧路町	別保
	釧路市	小 川 一 法	釧路市	中央
	根室	植 島 博 幸	中標津町	中標津東
	ｵﾎｰﾂｸ	信 田 雅 守	北見市	北

事務局幹事・事務所員名簿

所　属	地 区	氏　　名	市町村	学校名
経営部	札幌	八田 博之	札幌市	八軒
	札幌	岩村 鋭介	札幌市	藤野南
	石狩	山谷 潤	恵庭市	和光
研修部	札幌	西村 貴史	札幌市	澄川
	札幌	澁谷 宣和	札幌市	澄川西
	札幌	片山 俊明	札幌市	東山
	札幌	新澤 一修	札幌市	芸術の森
対策部	札幌	髙梨美奈子	札幌市	大倉山
	胆振	田中 雅子	苫小牧市	明野
	上川	島村 圭吾	富良野市	扇山
情報部	札幌	髙畑 均	札幌市	百合が原
	旭川	小野 直久	旭川市	神楽
	空知	澤口 純一	岩見沢市	日の出
	札幌	三浦 祐大	札幌市	東園
所　長		池田 洋	札幌市	事務所
主　任		鈴木美紀子	札幌市	事務所

指名理事名簿

役職名	地 区	氏　　名	市町村	学校名
研　究	札幌	石 川 篤 司	札幌市	二条
へき･複連	上川	三 戸 孝 之	占冠村	占冠中央
道特協	札幌	田 古 広	札幌市	元町北